

2020年3月期
決算説明資料

2020年5月27日

東証1部: 6333



株式会社 帝国電機製作所

1. 2020年3月期決算
2. 当社の外部・内部環境と戦略
3. 当社製品の用途
4. 環境経営への取組み
5. 参考資料



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

2020年3月期決算



株式会社 帝国電機製作所

2020年3月期決算概要



- 主力のポンプ事業は、前期の高水準の受注残高が売上を牽引。利益面は、売上の増加に加え、中国子会社の採算改善や前期の中国子会社の不適切な取引行為に係る未払税金の取崩しが生じたこと等により増益
- インドを除く海外子会社は12月決算のため、2020年3月期はコロナウイルスによる影響はほとんど無し

(百万円)	2019年3月期	構成比 (%)	2020年3月期	構成比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	22,264	100	23,576	100	+1,311	+5.9
売上原価	13,135	59.0	14,138	60.0	+1,003	+7.6
売上総利益	9,129	41.0	9,437	40.0	+308	+3.4
販売費及び一般管理費	7,103	31.9	5,686	24.1	▲1,417	▲20.0
営業利益	2,025	9.1	3,750	15.9	+1,725	+85.2
経常利益	2,225	10.0	3,829	16.2	+1,603	+72.0
親会社株主に帰属する当期純利益	1,016	4.6	3,155	13.4	+2,138	+210.4

過去最高の売上・利益を達成

売上高

- ・主力のポンプ事業は、前期の高水準の受注残高が売上に寄与し増収
- ・電子部品事業は製品単価の見直しにより増収

営業利益

営業利益増加の主な要因

- ・売上増加
- ・中国の経費削減及び未払税金取崩し
- ・前期の中国不祥事関連費用

親会社株主に帰属する 当期純利益

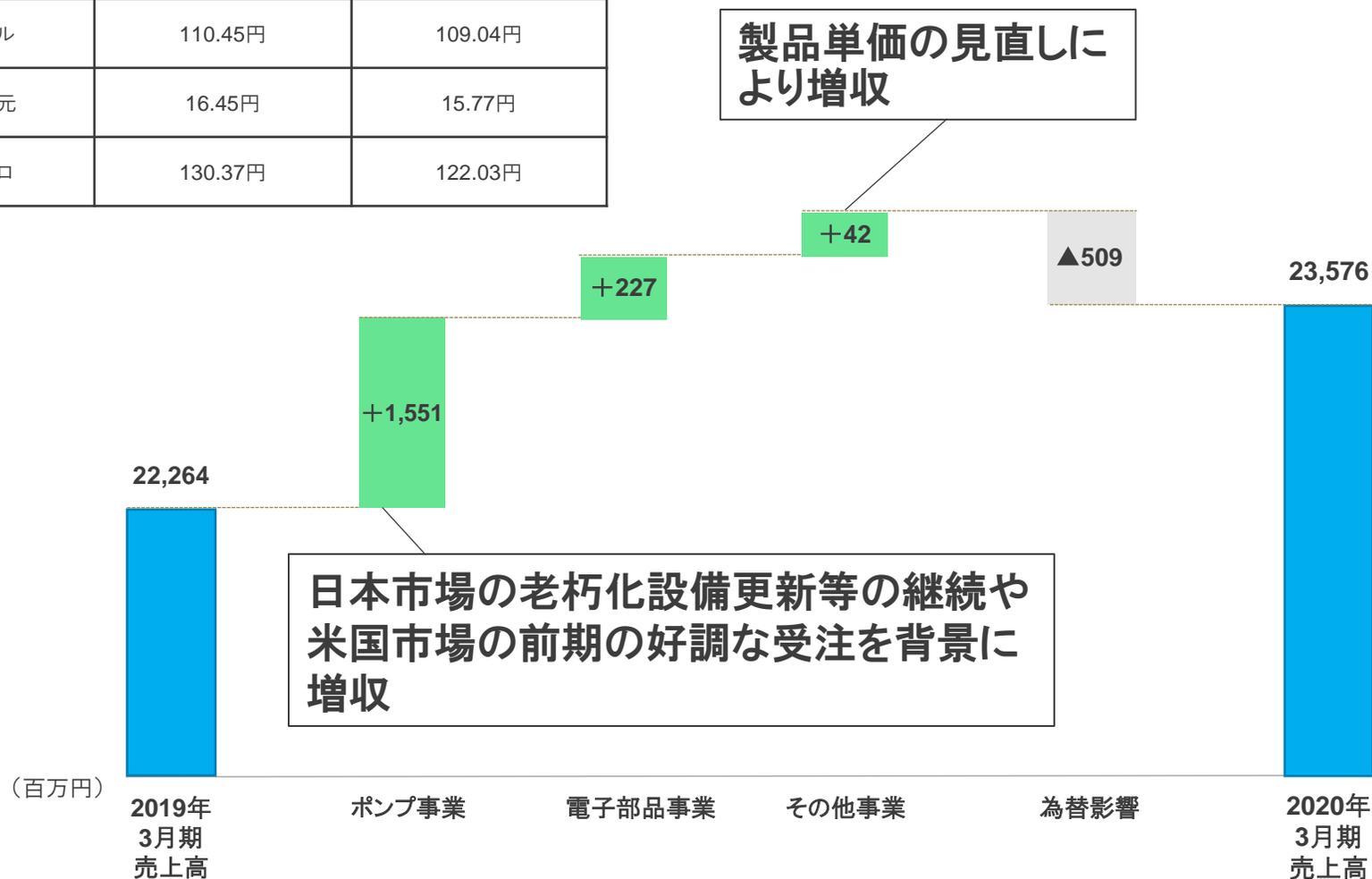
親会社株主に帰属する当期純利益増加の主な要因

- 上記に加え、
- ・中国の未払税金取崩し
- ・前期の中国不祥事関連費用

売上高増減分析



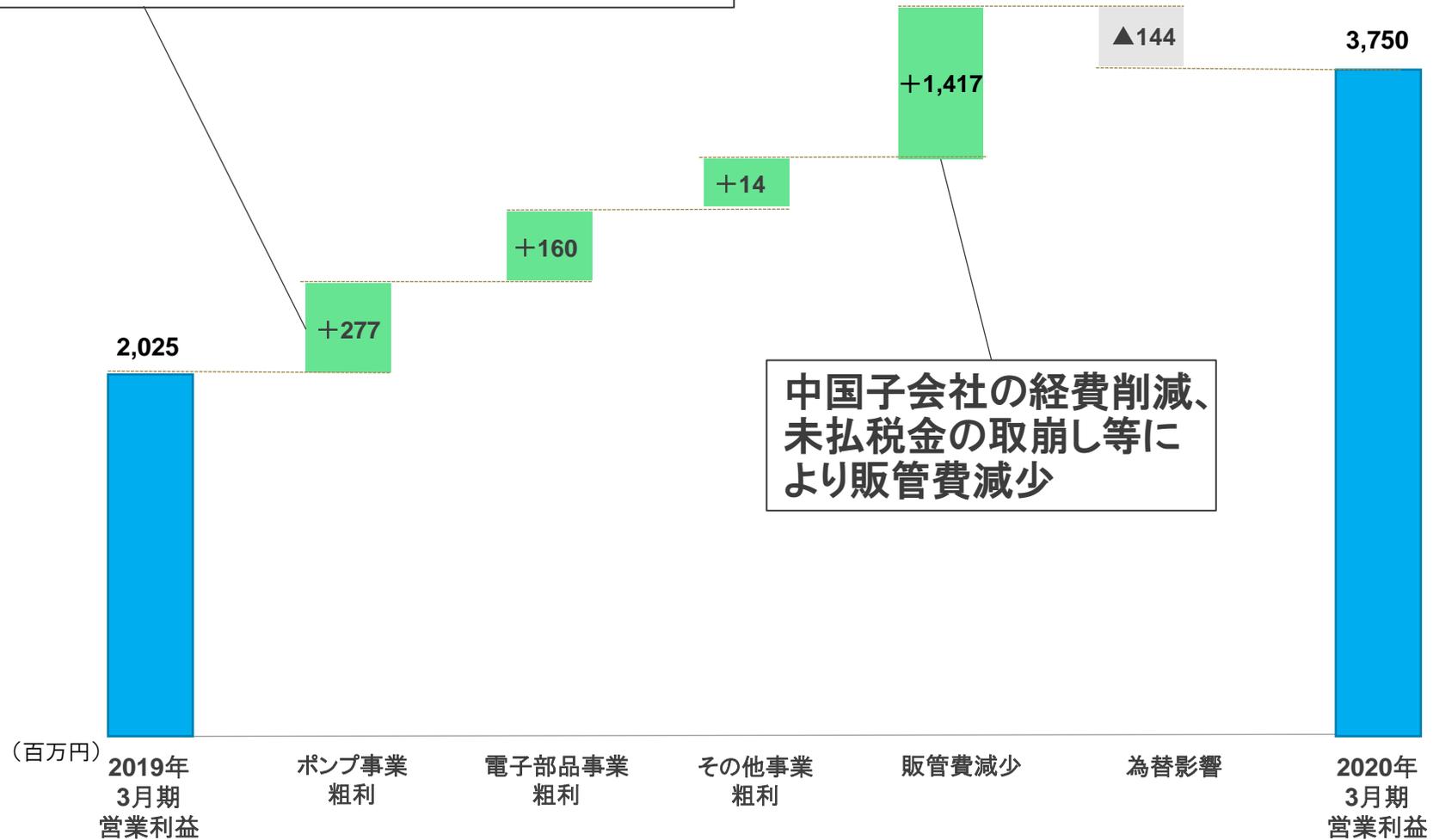
期中平均レート推移	2019年3月期	2020年3月期
USドル	110.45円	109.04円
人民元	16.45円	15.77円
ユーロ	130.37円	122.03円



営業利益増減分析



売上の増加、米国子会社の粗利率の改善



中国子会社の経費削減、未払税金の取崩し等により販管費減少

種別別セグメント(売上高・営業利益)



- ポンプ事業・・・前期の高水準な受注残高が今期売上に寄与し増収。利益面は、売上の増加、中国子会社の経費削減、未払税金の取崩し等により増益
- 電子部品事業・・・製品単価の見直しを行い黒字化

(百万円)		2019年3月期	2020年3月期	増減	増減率
ポンプ事業	売上高	20,019	21,061	+1,041	+5.2%
	営業利益 (営業利益率)	2,004 (10.0%)	3,542 (16.8%)	+1,537	+76.7% (+6.8%)
電子部品事業	売上高	1,738	1,965	+227	+13.1%
	営業利益 (営業利益率)	▲64 (-%)	106 (5.4%)	+170	- (-)
その他	売上高	506	548	+42	+8.3%
	営業利益 (営業利益率)	84 (16.7%)	101 (18.5%)	+16	+19.8% (+1.8%)
合計	売上高	22,264	23,576	+1,311	+5.9%
	営業利益 (営業利益率)	2,025 (9.1%)	3,750 (15.9%)	+1,725	+85.2% (+6.8%)

ポンプ事業 所在地別売上高



- 日本・・・老朽化設備更新等の堅調な受注が続いたこと等により増収
- 欧米・・・米国市場において前期の好調な受注を背景に増収
- アジア・・・中国は横ばい、東南アジアは減収

(百万円)		2019年3月期	2020年3月期	増減	増減率
日本	売上高	6,995	7,506	+510	+7.3%
欧米	売上高	4,394	5,139	+744	+17.0%
アジア	売上高	8,630	8,415	▲214	▲2.5%
合計		20,019	21,061	+1,041	+5.2%

※販売元が基準(外部顧客に対する売上でセグメント間は除く)

●主にケミカル機器用が増加

(百万円)	2019年3月期	比率 (%)	2020年3月期	比率 (%)	増減	増減率 (%)
ケミカル機器用	10,432	52.1	11,984	56.9	+1,552	+14.9
冷凍機・空調機器用	2,171	10.9	1,954	9.3	▲216	▲10.0
電力用(車両用)	821	4.1	657	3.1	▲163	▲19.9
電力用(地上用)	586	2.9	591	2.8	+4	+0.8
定量注入機器	382	1.9	415	2.0	+33	+8.8
その他ポンプ	217	1.1	115	0.5	▲102	▲47.0
メンテナンス	5,408	27.0	5,342	25.4	▲66	▲1.2
合計	20,019	100.0	21,061	100.0	+1,041	+5.2

種類別受注高・受注残高



- ・ポンプの受注は、米中貿易摩擦等による世界経済悪化の懸念から一部に計画の先送り等も発生したため減速傾向
- ・インドを除く海外子会社は12月決算のため、2020年3月期はコロナウイルスによる影響はほとんど無し

(百万円)	2019年3月期		2020年3月期		増減	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
ポンプ事業	22,679	9,587	19,775	8,301	▲2,903	▲1,285
電子部品事業	1,716	148	1,928	111	+211	▲37
その他	498	106	530	88	+31	▲18
合計	24,893	9,843	22,234	8,501	▲2,659	▲1,341

貸借対照表のポイント



- 中国子会社の修理子会社3社のうち1社清算に係る未払税金取崩し
未払法人税等:459百万円 その他(うち未払金より):285百万円

百万円

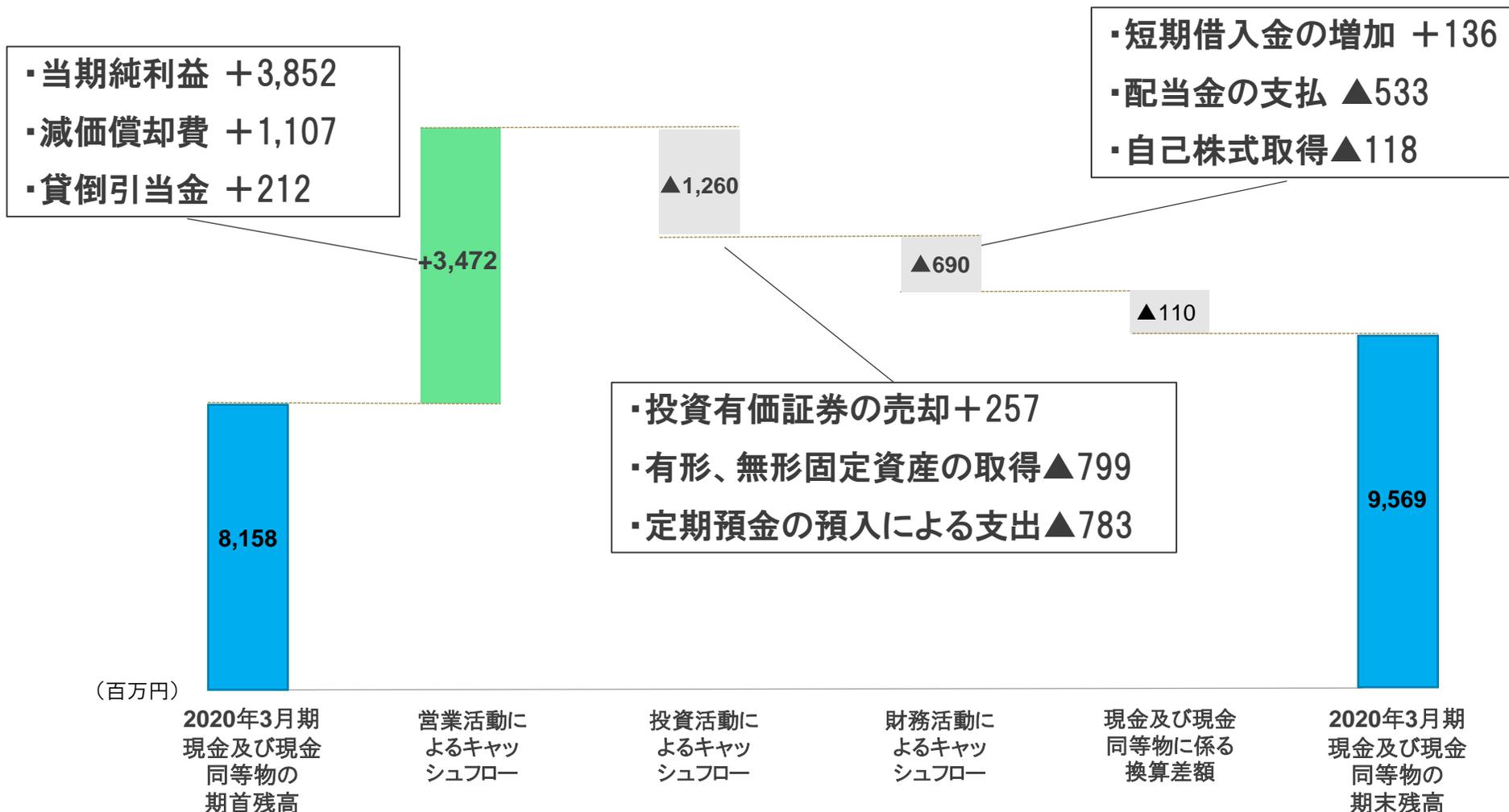
資産の部	2020年3月期	前期末増減
流動資産	23,731	+1,340
現預金	10,515	+2,146
受取手形・売掛金	8,344	+231
製品・仕掛品 原材料・貯蔵品	4,897	▲772
固定資産	11,046	▲872
有形固定資産	8,706	▲225
無形固定資産	564	▲233
投資その他の資産	1,775	▲413
資産合計	34,777	+467

負債の部	2020年3月期	前期末増減
流動負債	6,825	▲1,769
支払手形・ 買掛金	2,131	▲751
短期借入金	451	+135
未払法人税等	944	▲549
その他	2,639	▲614
固定負債	901	+1
純資産	27,051	+2,236
(内自己株式)	(▲927)	(▲118)
負債・純資産合計	34,777	+467

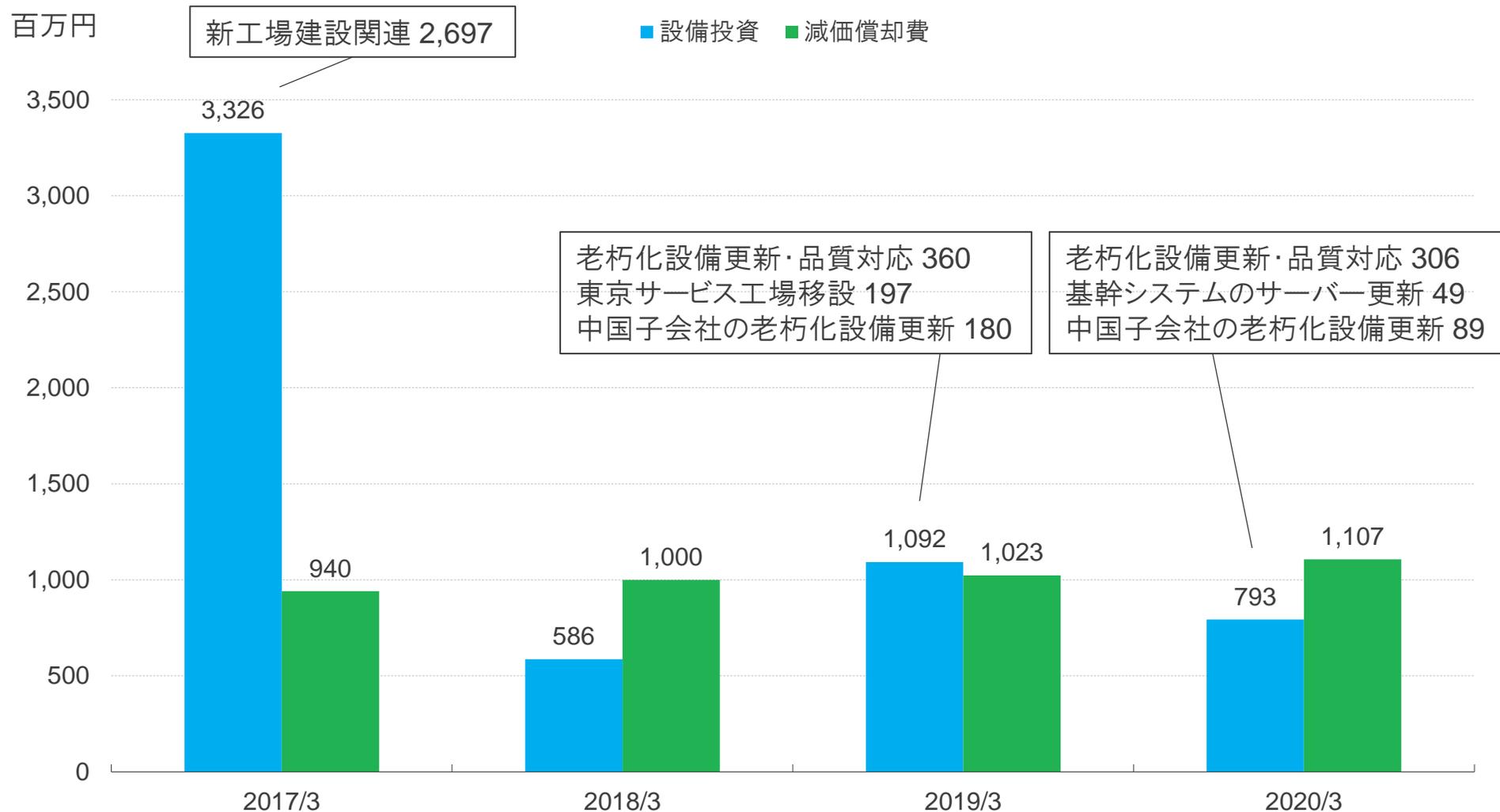
キャッシュ・フローの動向



●業績堅調、現金・同等物期末残高は1,411百万円増加



設備投資・減価償却費



基本方針

株主に対する利益還元は経営の重要課題のひとつ
拡大する事業機会を迅速・確実に捉える為に必要となる株主資本の水準を保持

配当 連結配当性向30%以上を目標

自己株式取得 市場環境や資本効率等を勘案し、必要に応じて検討

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期 (予定)
年間配当金	24円	36円	未定
配当性向(連結)	46.7%	※22.5%	未定

※ 2019年12月に総額117百万円の自己株式取得、総還元性向は26.2%

2020年3月期決算への影響

- ・ インドを除く海外現法は12月決算のため影響はほとんど無し、国内もほとんど影響無し

現在の状況（☆は工場のある国・地域）

国名	足許の状況	生産・営業活動
☆日本	5/25に緊急事態宣言解除	<ul style="list-style-type: none"> ・工場は停止することなく通常稼働、営業や技術部門等の一部が交替でテレワーク実施 ・受注状況は堅調だが定期修理が延期になるなどの影響が出てきている
☆米国	<ul style="list-style-type: none"> ・ペンシルベニア州南部は引き続き6/4まで在宅命令継続、延長も有り得る ・ペンシルベニア州の他のいくつかの郡では徐々に再開、テキサス、オハイオも徐々に活動再開 	<ul style="list-style-type: none"> ・工場は通常どおり稼働中、営業・管理部門はテレワーク ・引き合い・受注は弱含み、一部では来年への出荷延長依頼あり
☆中国	一部の地域を除けばほぼ正常化、客先のプラント稼働再開も進んでいる様子	<ul style="list-style-type: none"> ・工場は稼働中、生産は正常化 ・営業員は5月中旬から徐々に営業所勤務にシフト。物流は正常化 ・足許の引き合いは減少しており、回復は夏以降の見込み
☆インド	政府はロックダウン措置を5/31まで再延長	<ul style="list-style-type: none"> ・当局から5月中旬に工場操業再開の許可がおりた ・客先は人数を絞って部分的に操業している状況、引き合いは減少している

現在の状況（☆は工場のある国・地域）

国名	足許の状況	生産・営業活動
韓国	終息に向けた雰囲気があったものの、連休中に再びクラスターが発見され警戒が続いている	通常勤務を続けているが、顧客がテレワークであったため営業活動があまりできていない。半導体関連など一部のプロジェクトが延期になった
シンガポール	6/1までロックダウン。一部の業種のみ営業が認められている状況	テレワークを継続中、顧客もテレワークであるため営業は困難な状況
ドイツ	ドイツでは5/11より店舗・学校等一部が再開。5/18よりオランダとルクセンブルグとの国境が解放、他国とは6/15まで閉鎖	テレワークを継続中。交替で一部の社員が出社引合は継続的に有り

今後の見込み

- 日本は、受注は堅調に推移しているが、定期修理が延期になるなどの影響が出てきており先行き不透明
- 米国は顧客がプロジェクトの採算性を再評価しており、今後、延期や中止が出てくる可能性がある
- 中国においては計画されていたプロジェクトの中止には至らないものの、延期・保留案件が出ており、引き合いも減少していることから、当面は厳しい状況が続く見込み。回復は夏以降とみられる
- 韓国においては、半導体関連などの一部にプロジェクト延期の動きが出ている
- 新型コロナウイルス感染拡大による消費の減少や工場停止、また、それらに伴う原油価格の下落等の影響により、当社主要顧客の化学業界も厳しい状況にある。下期回復を期待するが、新型コロナウイルス感染拡大の第2波が発生する可能性もあり、予断を許さない
- 上記のような状況であることから、現時点では今期の業績見通し及び配当予想は合理的な算定が困難であるため、今後業績予想が可能となった時点で開示を行う予定



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

当社の外部・内部環境と戦略



株式会社 帝国電機製作所

幅広い裾野

- 当社グループの主要顧客である化学メーカーは、エチレン等の基礎化学品を原材料として、合成樹脂や合成繊維、合成ゴム、塗料、接着剤、化粧品などを消費者や各種産業に幅広く提供しており、幅広い裾野を持つ

世界に広がる市場・環境意識の高まり

- 新型コロナウイルスの感染拡大の影響により目先の受注環境は厳しいが、中国、インド、東南アジアを中心としたアジア地域や米国等で中長期的なケミカル市場の拡大が期待できる
- 環境意識の高まりにより、液漏れがないキャンدمータポンプのニーズが高まっている

国内市場

- 国内化学メーカーは、海外の安価な製品に対抗すべく生産効率化や高付加価値製品に力を入れており、設備改造等の小規模な案件が引き続き見込める
- 現状のエチレン及び石油化学・化学プラント(関連施設)は老朽化しており、一定の設備更新需要は継続
- 半導体関連の需要は堅調に推移

メンテナンス需要の増加

- キャンدمータポンプ市場、定量ポンプ市場の拡大によるメンテナンス需要の増加

新型コロナウイルス蔓延による世界経済悪化

- 新型コロナウイルス蔓延の影響により世界経済が急速に悪化しており、化学業界の設備投資が延期・減退する可能性がある

原油価格のボラティリティの高さ

- 原油価格のボラティリティが高くなっており、化学業界の設備投資が延期・減退する可能性がある

米中貿易摩擦の継続

- 米中関係が悪化しており、コロナウイルス収束後も景気回復の足を引っ張る可能性がある

中国企業の台頭

- 中国を始めとしたアジア地域で中国企業が安値受注をしている

世界4拠点での生産体制

- 日本、米国、中国、インドに生産拠点をもち、現地のニーズに合わせたポンプを生産

One to One マーケティング

- 顧客の工場単位でOne to Oneマーケティングを実施、顧客ニーズを把握し迅速に対応

サービス体制の充実

- 国内においては、2拠点のサービス工場に対応
- 海外においては、海外子会社直轄のサービス工場や多数の協力サービス工場に対応

ラインナップの充実

- ケミカル向けその他、電力・車両向けポンプや冷凍機・空調機向けポンプなどケミカル用途以外にも幅広い対応力を持つ

開発力

- キャンドモータポンプのリーディングカンパニーとして各種用途の開発を推進

収益力強化

- 海外向け高難度案件の対応力強化
- 納期短縮化
- キャンドモータポンプに次ぐ第二の柱づくり

人材育成

- 高度人材の育成
- グローバル人材の育成

コーポレート・ガバナンスの強化

- グループ全体でのコンプライアンス徹底

課題を見据えた中期的な取組み内容



対処すべき課題

収益力強化

- マーケットイン志向の研究開発
- 品質向上とブランド力強化
- グローバル生産・販売・サービス体制の構築

高度人材の育成

- あらゆる顧客ニーズに対応する高度な技術、技能を持つ人材の育成
- 高度な技術力と高い語学力・コミュニケーション能力を併せ持つグローバル人材の育成

CSRへの積極的取組み

- ESGの取組み推進
- 持続的な企業価値向上

経営方針

チームビルディング

- 組織力の強化による業務効率化・受注力強化

収益基盤の拡大

- 海外受注強化
- 納期短縮
- 定量ポンプ拡販
- 他社とのアライアンス

業務改革

- 業務フロー改善、IT・IoT技術による業務効率化
- 多能工化

人材育成

- 技術者・作業者の更なるレベルアップ
- グローバル人材育成

ESGの取組み推進

- コーポレート・ガバナンス強化
- キャンドモータポンプの普及

収益力強化・高難度案件対応・納期短縮化・CGの強化

取組み内容

情報共有による顧客ニーズへの迅速な対応

- ノックダウン生産拡充
- ハイブリッドポンプ投入

- 調達先拡充
- 中・大型ポンプ試験設備増強
- テレワークの導入

教育センター室設置

- リスクマネジメント
- コンプライアンス強化
- ペーパーレス化

- 海外現法との一部システムの共通化
- 海外現法との定例ミーティング

- 定量ポンプ販促チームの機能強化
- 定量ポンプの生産能力・サービス体制強化

- 工場内の無線LAN化
- EDI(電子発注システム)
- 子会社での生産管理システム導入

- 海外現法への若手営業員・技術者派遣
- 外部講習の活用

- ポンプ効率アップ
- メカニカルシールポンプからのリプレース

ポンプ事業の地域別戦略とポイント



国名	骨子	戦略
日本	<ul style="list-style-type: none">・One to Oneマーケティング・定量ポンプ拡販	<ul style="list-style-type: none">・工場単位で顧客訪問を行い設備更新等の情報をいち早く入手、顧客ニーズにきめ細かく迅速に対応し顧客満足度向上を図る・定量ポンプの販促強化
米国	<ul style="list-style-type: none">・規格対応強化・サービス体制拡充・ノックダウン製品拡充・定量ポンプ拡販	<ul style="list-style-type: none">・規格への対応強化やサービス体制拡充により、メカニカルシールポンプからのリプレース需要を創出し、キャンدمータポンプ市場の拡大を図る・ノックダウン製品拡充による納期短縮化で受注力を強化する・日本製定量ポンプの販促強化
中国	<ul style="list-style-type: none">・ケミカル市場の深耕・用途拡充	<ul style="list-style-type: none">・生産体制を拡充し納期短縮やポンプ大型化への対応力を強化する・ケミカル用途以外にも開拓していく
インド	<ul style="list-style-type: none">・ケミカル市場への取組み強化・生産力強化	<ul style="list-style-type: none">・日本とインドの技術を融合したハイブリッドポンプの投入・ケミカル市場への営業力強化

ポンプ事業の地域別戦略とポイント



国名	骨子	戦略
韓国	<ul style="list-style-type: none">・営業力強化・サービス体制強化	<ul style="list-style-type: none">・日本の技術部門との連携による技術営業力の強化・他の海外現法との連携強化・中国製ポンプの投入も検討中
シンガポール	<ul style="list-style-type: none">・直販化の推進・サービス体制拡充	<ul style="list-style-type: none">・代理店の選別と直販化の推進・直営サービス工場
ドイツ	<ul style="list-style-type: none">・マーケティング強化	<ul style="list-style-type: none">・代理店との関係強化・他の海外現法との連携強化



モータジェネレータ基板

電子部品事業

- 100%子会社平福電機製作所の事業
- 電子部品のプリント基板表面への実装作業中心（自動車用・二輪車用85%、産業機械用15%）

主力の車載向けに一層注力（自動車のシステム化・EV化対応）

- 統合ECU（ワイパーや照明等の機能制御機器）
- EPS（電動パワーステアリングシステム）
- SSU（スマートキーレスエントリー）
- モータジェネレータ（車両用発電電動機）
- EV向けモータの回転センサー

産業機械向けの拡充（省力化投資拡大による需要増）

- シーケンサ（PLC）用電源基板・表示器

収益改善に向けて

- 販売単価見直しによる収益改善を継続
- 人材教育と多能工化による生産性アップ



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

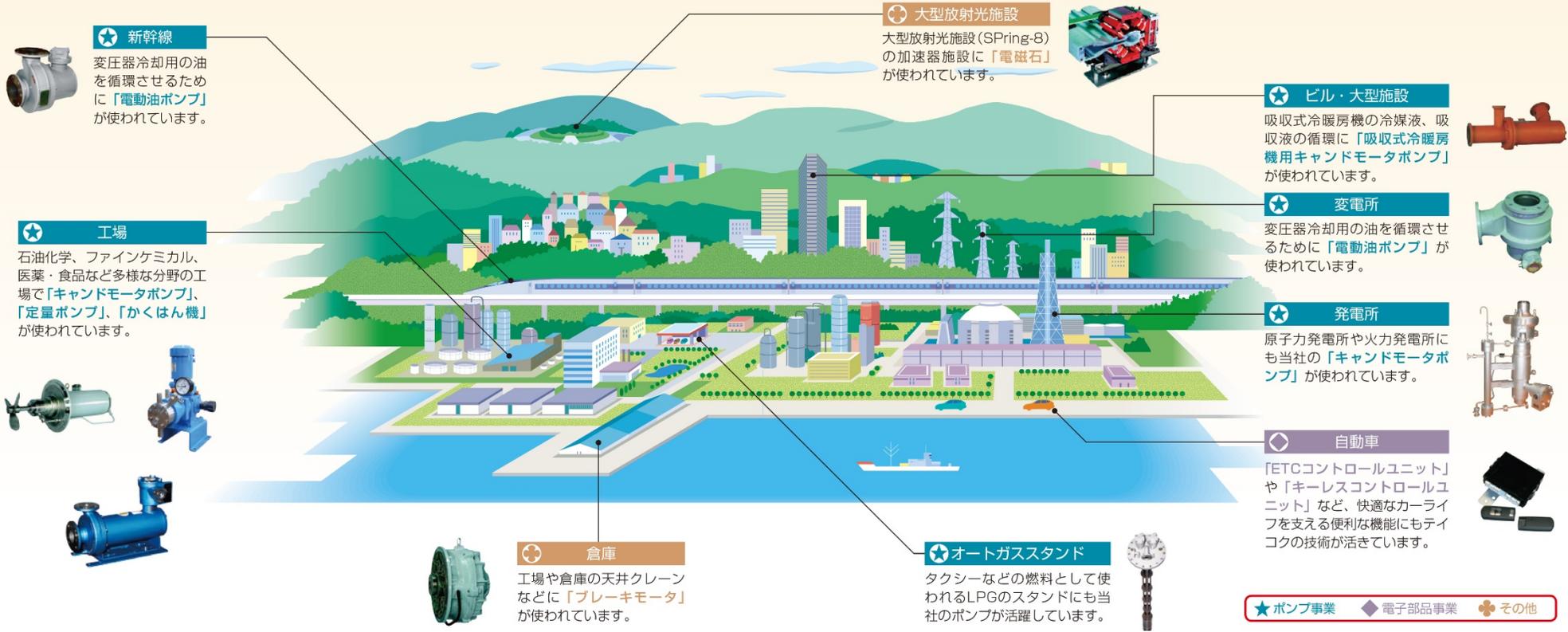
当社製品の用途



株式会社 帝国電機製作所

特集 くらしの中のテイコク

当社の製品は、設備や装置の動力部分に使われているため、一般に目に触れる機会はあまりないと思います。しかし、何気なく利用しているビルや交通機関、また、工場、発電所などにも、当社製品は幅広く活躍しており、快適で便利な暮らしや社会をしっかりと支えています。



★ ポンプ事業 ◇ 電子部品事業 ⊕ その他



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

環境経営への取組み



株式会社 帝国電機製作所

主力製品であるキャンドモータポンプ



- ・完全無漏洩であることから、環境負荷が小さい
- ・運転音が静かであるため、騒音を低減できる



環境に優しい製品の製造・販売で
地球環境悪化防止に貢献

②当社ポンプの環境貢献例



大気汚染対策

製油所の脱硫装置

大気中に有害物質である硫黄酸化物を放出させないために、製油所では原油に多く含まれた硫黄分を低減する脱硫装置を使用しています。

オゾン層保護

温暖化係数の低い安全なCO₂を冷媒とする冷凍装置

家電や自動車等から回収されたフロン分解処理設備

空調機器や冷凍機器等で使用する代替フロン製造装置

火力発電所の排ガスからCO₂を回収するプラント

土壌汚染対策

環境保全型農業製品の製造装置

土壌汚染の防止や安全な農作物の生産を目指す環境保全型農業に適した、肥料や農薬等の農業製品の製造には、高精度な設備が求められます。

有害物質を含む液体が移送されるプラント

液漏れ＝土壌汚染になることから「完全無漏洩」であることが土壌汚染対策となります。

テイコクの TEIKOKU キャンドモータポンプ

水質汚濁対策

工業排水処理用施設で使用する污水処理装置

下水汚泥燃料化設備

海に流出した汚泥を回収し、含まれている炭素成分を取り出し燃料化します。

上下水道の浄化システム用オゾン発生装置

バイオ燃料

市販ガソリンにバイオエタノールを混合するプラント

LPGやディーゼルの代替となり得るバイオジメチルエーテルの送液設備

再生可能エネルギー

下水処理場の下水汚泥ガス化発電システム

太陽光発電パネルに使用される多結晶シリコンの製造装置

地熱等の熱エネルギーを利用したバイナリー発電装置

パームヤシ殻を主燃料にした、木質バイオマス専用の発電設備

その他

EV（電気自動車）関連設備

リチウムイオン電池のセパレータおよびセパレータの原料を製造する設備やリチウムイオン電池における電極の製造装置に採用されています。



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

参考資料



株式会社 帝国電機製作所

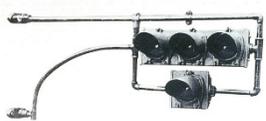
当社概要と沿革



株式会社 帝国電機製作所

当社は完全無漏洩構造のキャンドモータポンプを主力事業として、約半世紀にわたって事業を展開しています。

世界各地の石油化学プラント、ファインケミカル、医薬・食品業界、原子力発電所、変電所等様々な分野で活躍し、数多くの実績と信頼を築いています。



1939年
帝国電機製作所
設立

1958年
A型モータ
を試作

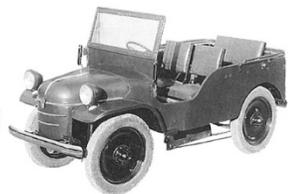
1991年
初の海外拠
点となる
TEIKOKU
USA INC.
を設立

2003年
TEIKOKU USA
INC.が米国クレ
イン社のケミポン
プ事業部を買収

2017年
本社工場
リニューアル

1947年

テイコク製電気
自動車を開発



1960年

キャンドモータ
ポンプの開発
に成功



1994年

中国に大連帝国
キャンドモータ
ポンプ有限公司
を設立

2006年

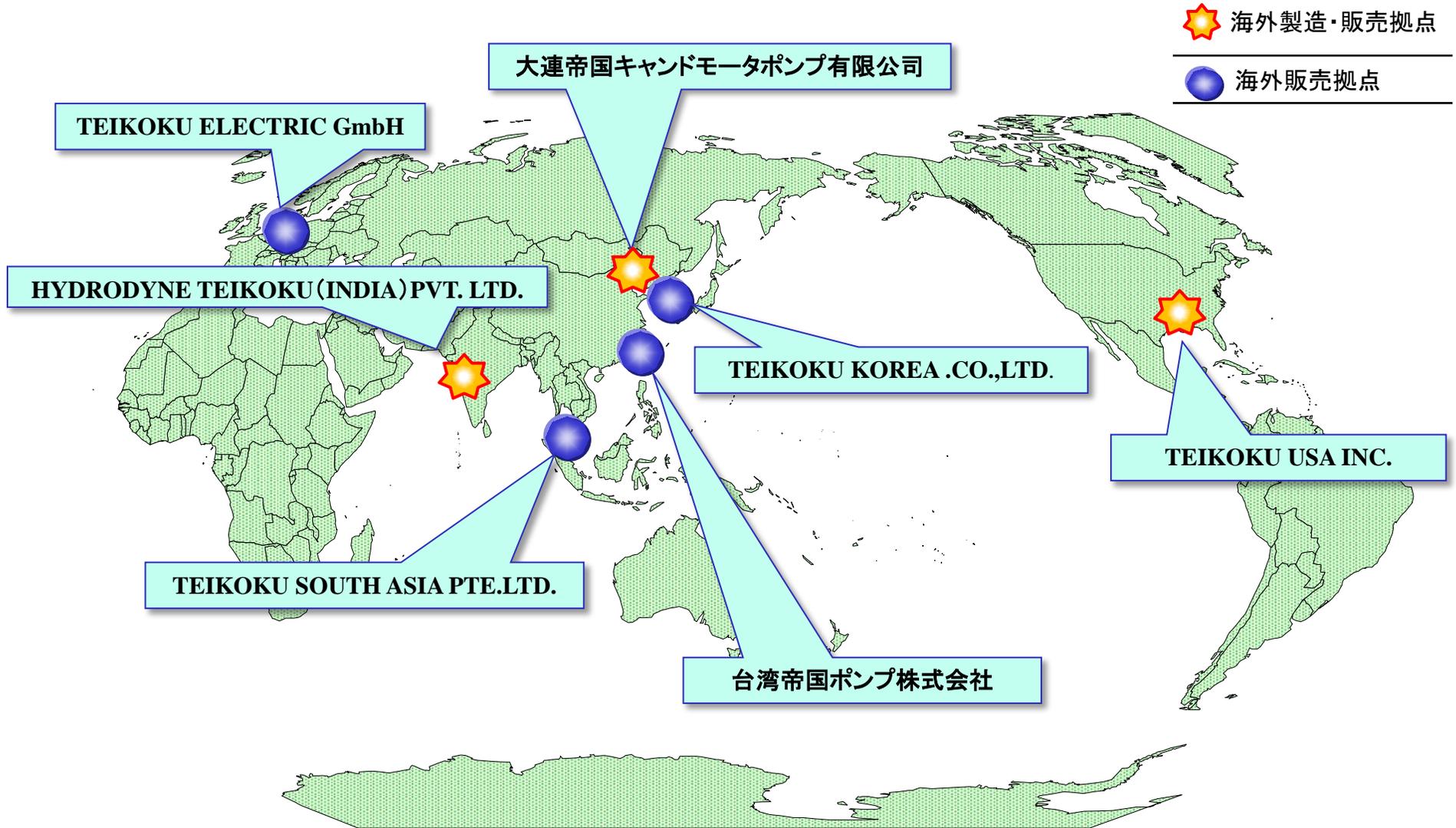
東京証券
取引所市
場第一部
に上場

2017年

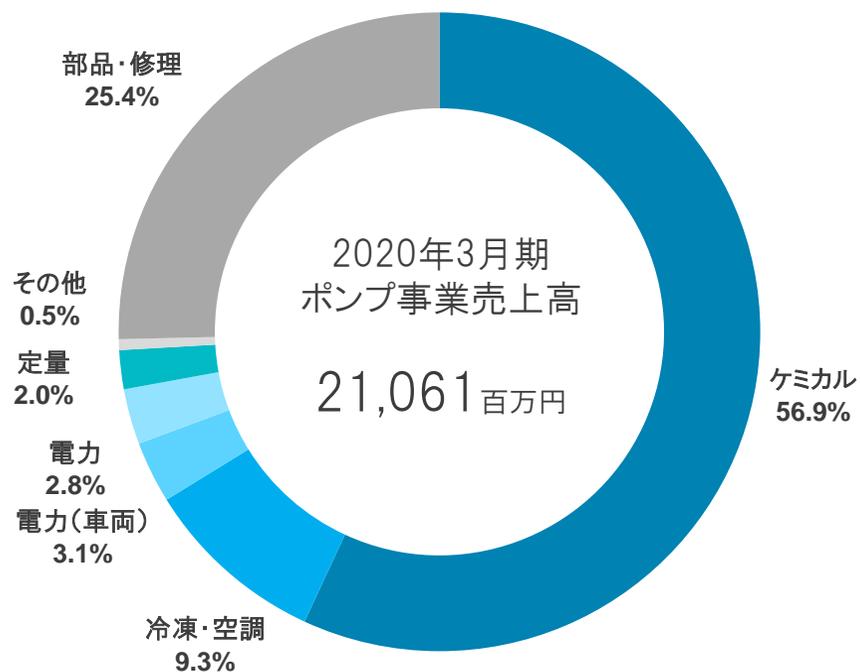
インドのHYDRODYNE
(INDIA)PVT. LTD. を子会社
化(現・HYDRODYNE
TEIKOKU(INDIA)PVT.LTD.)

- みんなで良くなろう
- 誠実に事に当たろう
- 積極的にやろう

当社の海外展開

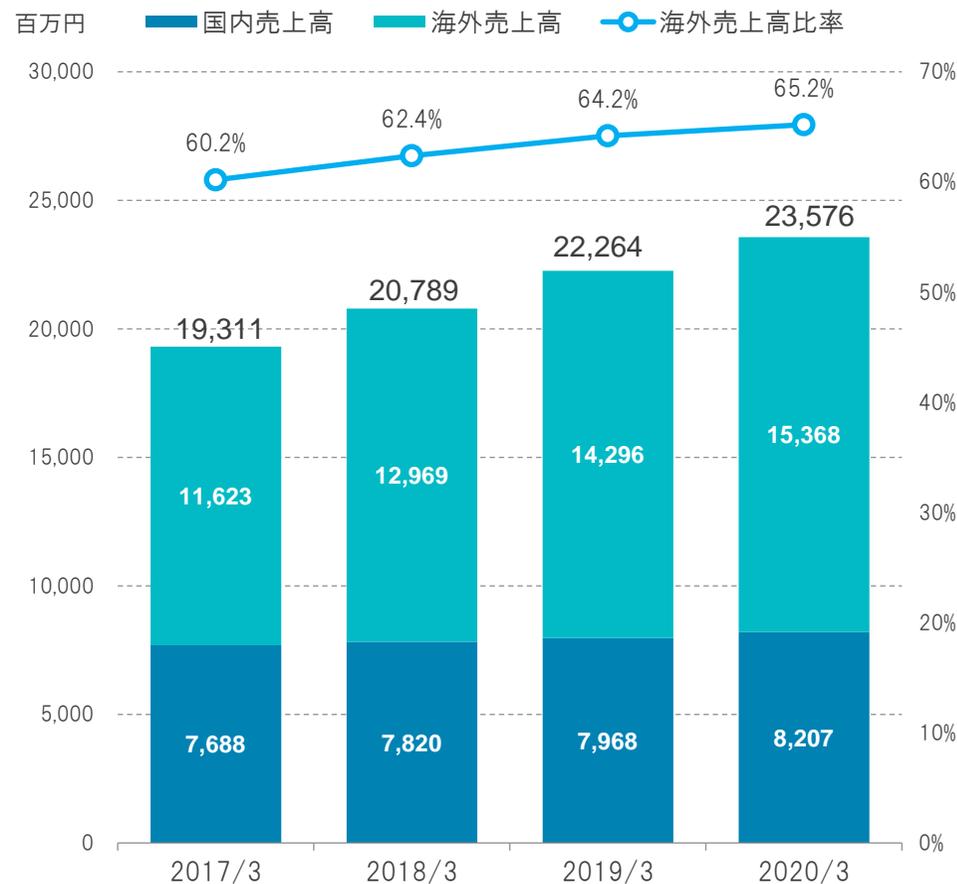


ポンプ用途別売上比率



● 売上高の約90%は、「キャンدمータポンプ」を主軸とする「ポンプ事業」

国内外売上高比率の推移



過去業績の推移



	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
売上高 (百万円)	20,748	19,311	20,789	22,264	23,576
営業利益 (百万円)	2,168	1,666	2,300	2,025	3,750
営業利益率(%)	10.5	8.6	11.1	9.1	15.9
ROE(%)	5.9	4.9	6.1	4.1	12.2
ROA(%)	6.5	5.4	7.1	6.6	11.1
配当性向(%)	21.1	26.4	26.8	46.7	22.5
受注高 (百万円)	21,759	18,146	21,723	24,893	22,234
受注残高 (百万円)	7,504	6,339	7,273	9,843	8,501

※2017年3月期から在外子会社の収益及び費用の換算方法を変更しております。為替の換算方法について期末レートの使用から期中平均レートの使用に変更しており、2016年3月期については遡及適用後の数値を記載しております。(2015年3月期は従前の期末レート適用)

キャンドモータポンプの特徴



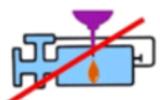
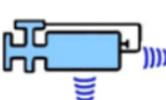
株式会社 帝国電機製作所

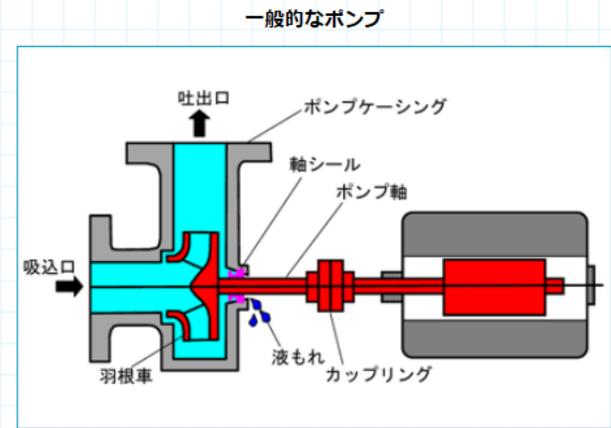
一般的なポンプとキャンドモータポンプの違い

一般的なポンプはポンプとモータを別々に製造し、それをカップリングして使用するため、回転軸を通したケーシングの隙間から、取り扱い液が外部へ漏れてしまいます。

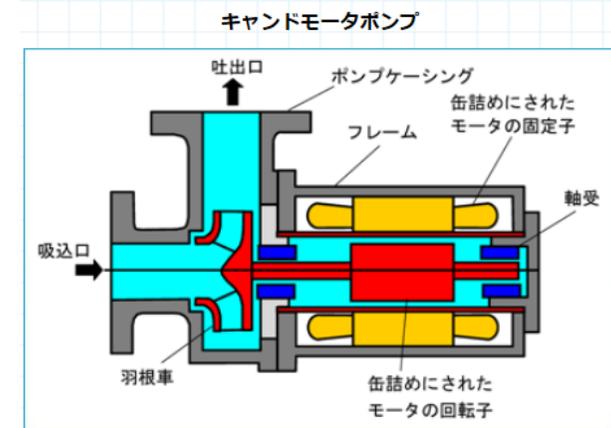
しかし当社のキャンドモータポンプは、ポンプとモータを一体化し、取り扱い液が密閉される構造であるため、完全無漏洩であることが特徴です。

キャンドモータポンプの優れた特徴

- | | | |
|--|---|--|
| <p>1 完全無漏洩</p>  <p>取り扱い液が外部に漏れるおそれがないので、人体に有害な液、爆発や引火しやすい液、高価な液、腐食性のある液などの取り扱いに適しています。</p> | <p>2 外気との接触なし</p>  <p>外気を吸い込まないので、真空系での運転、外気に触れると変質する液などの取り扱いに適しています。</p> | <p>3 幅広い圧力・温度に対応</p>  <p>軸シールがないので、系の圧力が高い、高温液、低温液、高融点液などを取り扱うポンプの製作が容易です。</p> |
| <p>4 潤滑油いらす</p>  <p>潤滑油を必要としないので、取り扱い液の汚染がなく、給油の手間が不要です。</p> | <p>5 小型軽量で省スペース</p>  <p>モータ軸がポンプ軸を兼ねているので、小型軽量で設置場所をとらない、分解点検が容易です。</p> | <p>6 静かな運転音</p>  <p>モータを冷却するファンがないので運転音が静かです。</p> |

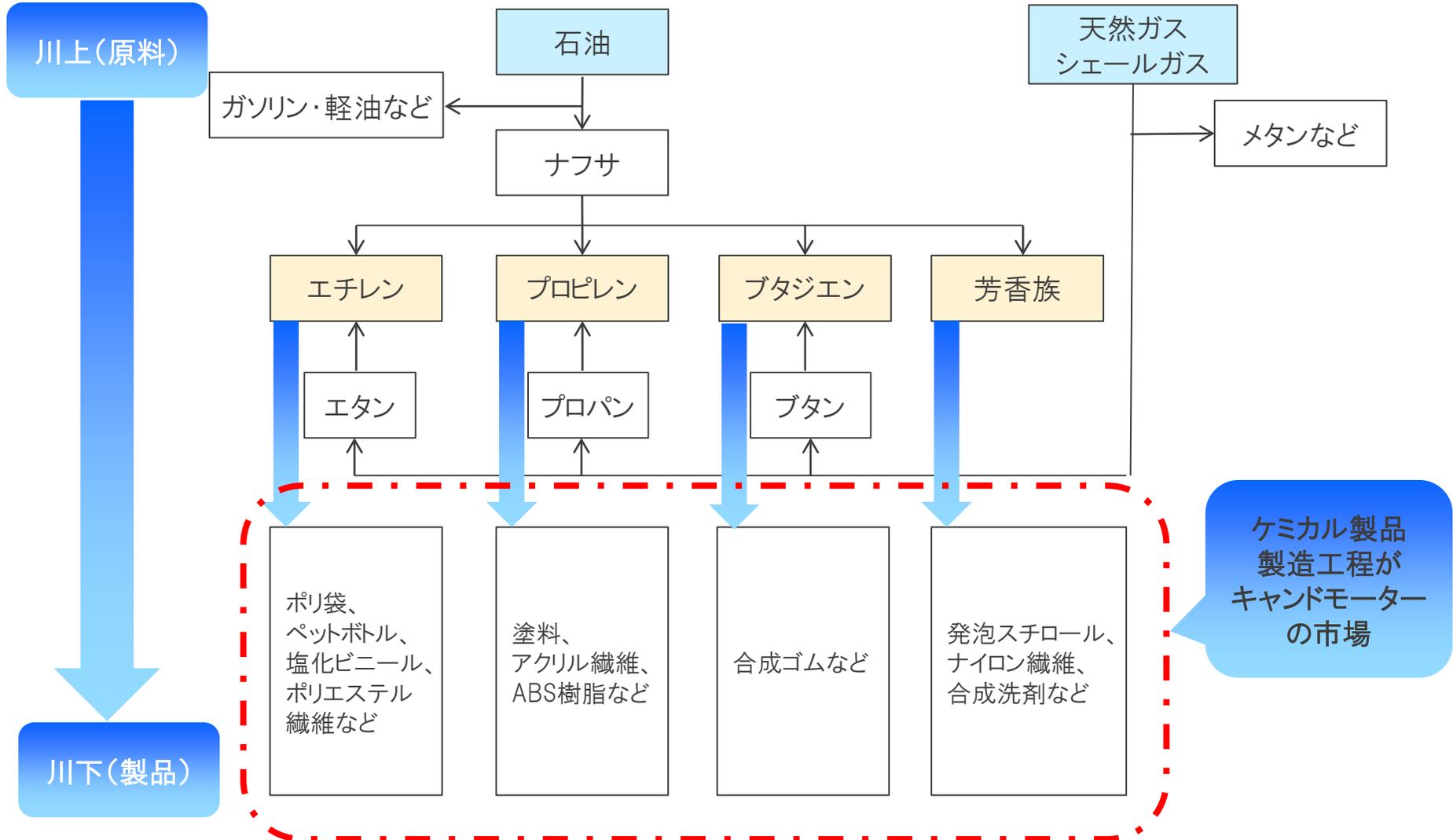


軸シール部から漏洩してしまいます。

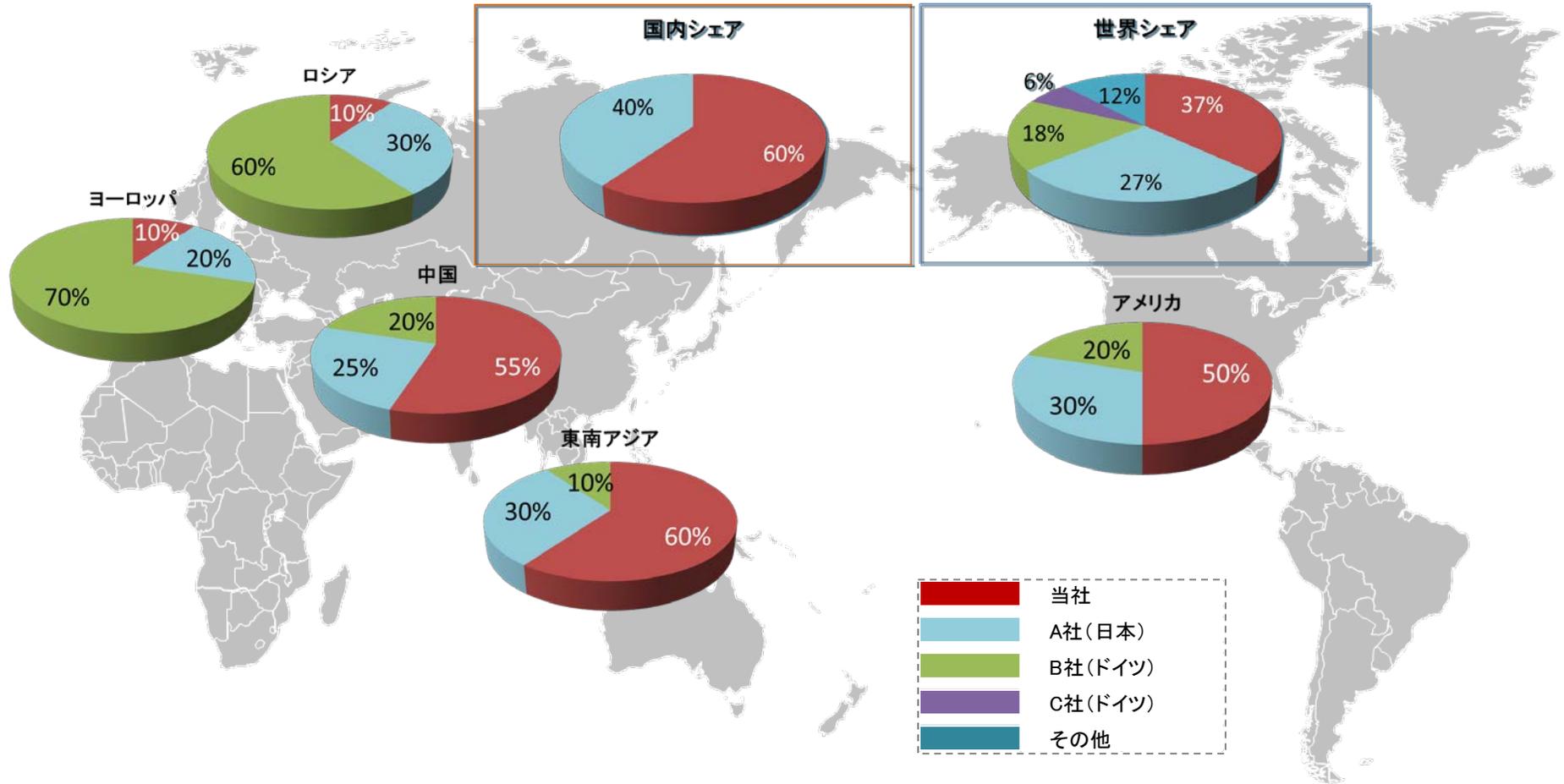


ポンプとモータを一体化し、密閉された構造であるため漏洩しません。

化学製品の製造工程とターゲット市場



キャンドモータポンプの市場イメージ



注) 上記グラフはキャンドモータポンプに関する主要な非上場外国企業等を含めた当社推計でありますので、お取扱いにはご注意ください

	<p>完全無漏洩という特徴を活かし、石油化学プラント等様々な分野で活躍しています。</p>		<p>電動油ポンプ</p>	<p>変圧器冷却用に使用されています。変電施設の他、すべてのJR新幹線に搭載されています。</p>	
<p>キャンドモータポンプ</p>	<p>国際規格API685に準拠したキャンドモータポンプ。高温・高圧に対する耐久性にも優れています。</p>		<p>定量ポンプ</p>	<p>一定量の液体を正確に移送可能なポンプ。用途範囲が広く、薬品業界等で活躍しています。</p>	
	<p>大型冷凍機・空調機の冷媒の移送においても、当社のキャンドモータポンプが採用されています。</p>		<p>かくはん機</p>	<p>各種槽内の液体を効率よく攪拌でき、石油化学業界のほか、食品業界等でも活躍しています。</p>	

本資料は当社をご理解いただくために作成されたものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれないうようにお願いいたします。